Yoshinogawa medical center

Board of education 通信

MANAGEMENT| VOL.9
2023/05
キャリアサポート室発行

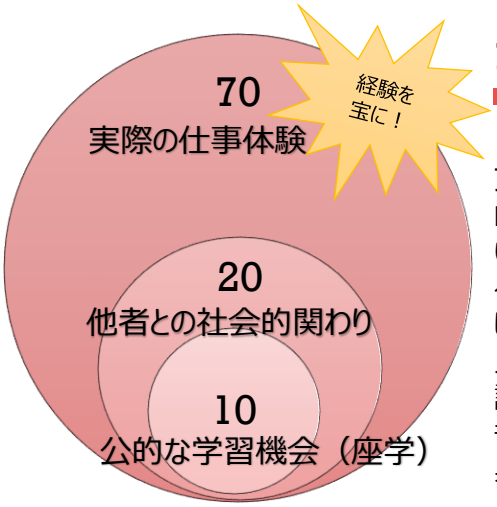
管理力を磨く７箇条①「経験を内省する力を鍛える」

objective

看護管理者の知識と能力向上のためのヒントをお伝えします。

POINT

「管理力」を磨くためには、経験を「内省」することが重要です。日々の出来事の中で自分が「気になること」にスポットを当てて、「なぜそのことが気になるのか」を深堀して考えていきましょう。そうすると、問題の本質が見えるようになってきます。



70:20:10 の法則
人材育成の領域で使われる。アメリカのリーダーシップ研究機関であるロミンガー社が様々な経営者を対象に「リーダーとして成長するために有効だったと思われる要素」を調査した結果

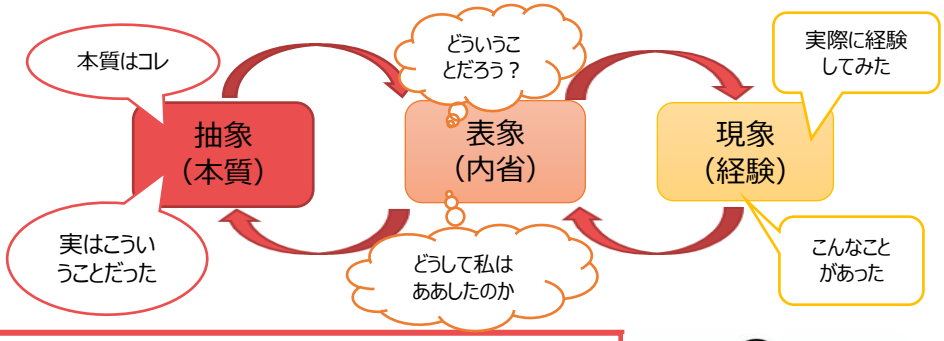
経験を深堀して考える癖をつけよう

日々の経験を力に変えていくためには、経験したことを「内省」して概念化していくことが必要！

内省とはもう一人の自分と対話しながら「深堀して考える」ということ。深堀して考えるとは、具体的な事実だけで終わらせず、そのことについて何を感じたか、なぜそうしたのかを考え、最終的に意味付けをするということです。例えばある出来事が起こった際に「大変だったけど解決できてよかった」と終わりにするのではなく、「なぜこのようなことが起こったのか」「自分のとった言動の意味は何だったのか」などと深堀して振り返る。そして「実は患者さんはこのようなことを訴えたかったのではないか」「自分の言動がスタッフのあのような行動を引き起こしたのではないか」などと仮説立てて考える。このように出来事について深堀して考える癖をつけていくと「あれはこういうことだったんだ」と、物事の本質にせまることができるようになってくる。一つの出来事の裏には複雑な事情が隠れていることが多くあり、「本質を見る力」を養わないと表面上の出来事ばかりを見て対処方法を見誤ってしまう。

まずは「気になること」にスポットを当てる

看護師の気になることのほとんどは「倫理的な問題」だろう。例えば「あのスタッフは患者さんに挨拶もせず採血をしてしまう」など心に引っかかる出来事は日常的にある。なぜそのことが気になるのかを深堀して考えていくと「自分が大事にしていること」が見えてくる。「自分が大事にしていること＝自分の管理スタイル」といえる。内省することは自分の管理スタイルを発見することにもつながる。経験を内省して本質を見抜く思考を説明した理論として「認識の三段階」というものがある。人間は考える際に「現象」「表象」「抽象」の三段階を行き来しているという理論。経験したことに対する内省を繰り返していくと全体を見る力（俯瞰する力）も養われる。内省する力を鍛えることは物事の本質を見る力や全体をみる力を身に着けること、そして自分自身の管理スタイルを発見することに繋がっていく。



2023 年 6 月　マネジメント対象研修予定

- 5 日･19 日　12 時 30 分～ 「看護を語る会」
- 12 日　マネジメントラダー「倫理」 17 時～
- 1 日　師長勉強会　17 時~
- 5 日　管理者勉強会　師長･主任会終了後～

電子メール

TWITTER ハンドル

電話

LINKEDIN URL